

【令和6年度 公共事業評価監視委員会】

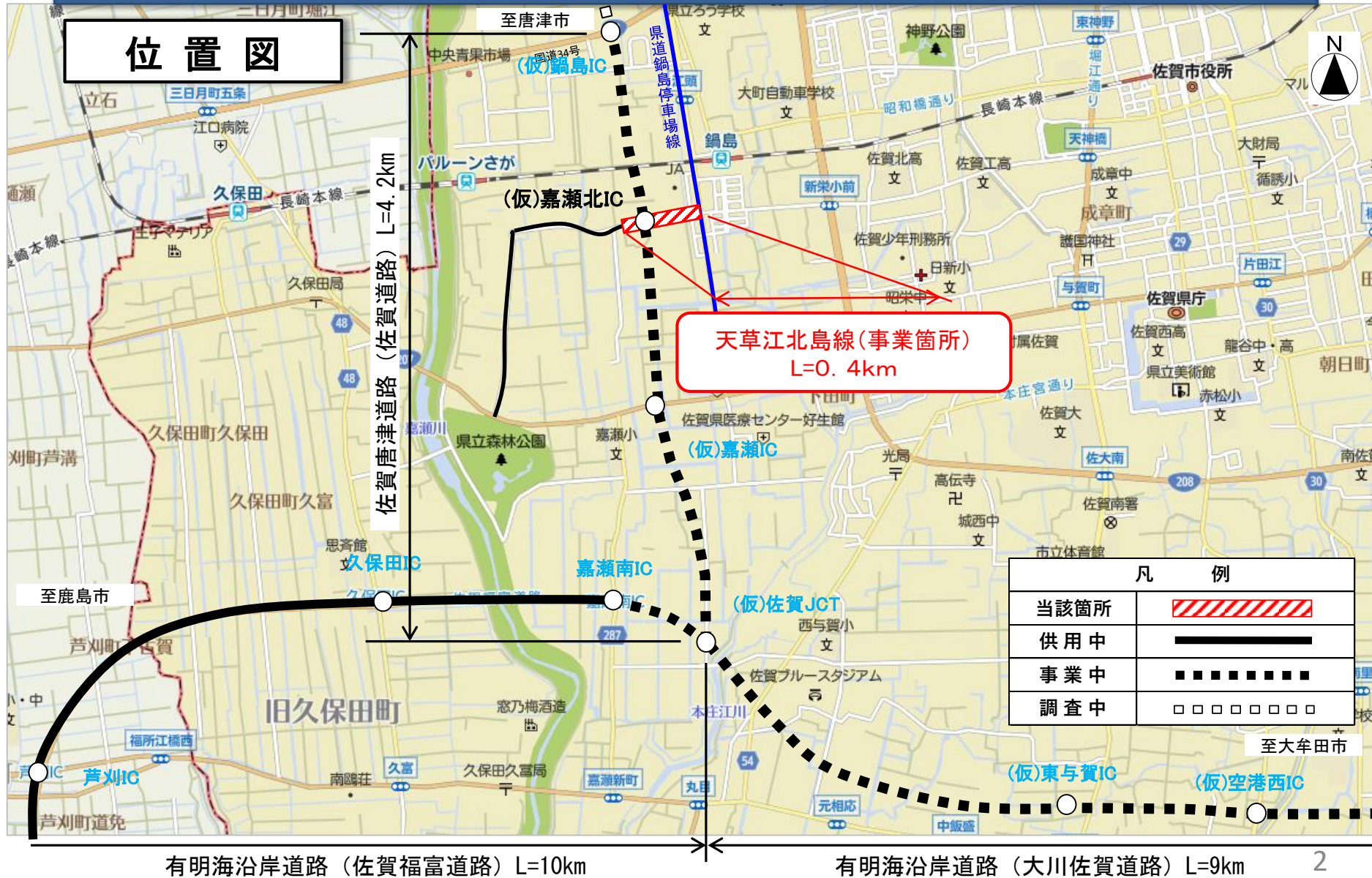
市道天草江北島線道路整備事業 (再評価)

令和7年2月4日

建設部 道路整備課

事業の概要(1)

位置図

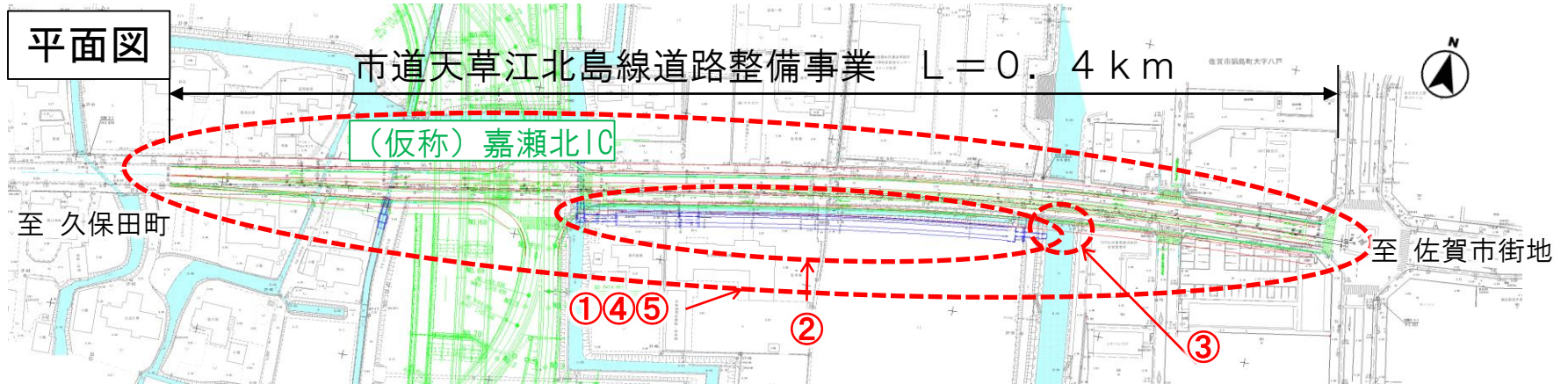


事業の概要(2)

事業概要

- 路線名 : 市道天草江北島線
- 起 点 : 佐賀市嘉瀬町大字荻野
- 終 点 : 佐賀市鍋島町大字八戸
- 延 長 : 0. 4 km
- 幅 員 : (当初) 1 8. 0m(両歩道)
(変更) 1 6. 0m(両歩道)
- 全体事業費 : (当初) 3. 9 億円
(変更) 8. 7 億円
- 事業期間 : (当初) 令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
(変更) 令和 3 年度 ~ 令和 1 0 年度

事業計画変更の概要



変更内容

- ① 計画幅員の見直し
- ② 既設水路の付替え
- ③ 橋梁の構造形式の変更
- ④ 資機材及び労務費等の物価上昇
- ⑤ 事業期間の延伸

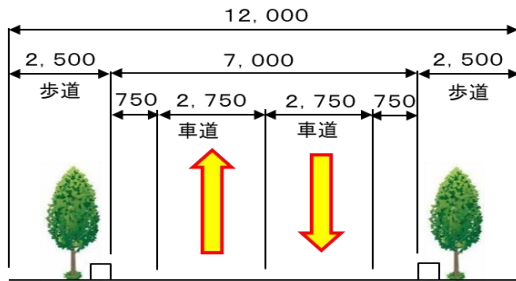
< (仮称) 嘉瀬北 I C 付近 >



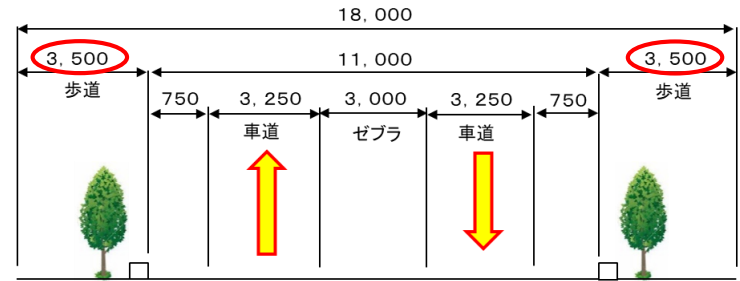
事業計画変更①

①計画幅員の見直し

現況

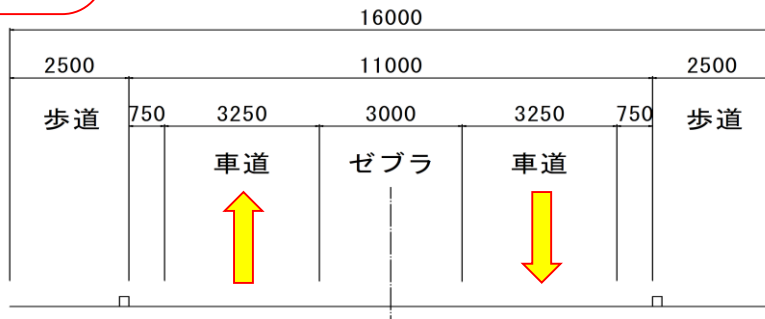


計画



$$\text{歩道幅員} = 2.0\text{m} + \underline{1.5\text{m (植栽帯)}} = \underline{3.5\text{m}}$$

変更



当初計画では、既設市道と同様に、植栽帯を含んだ歩道幅員としていた。



詳細設計を進める中で、地元等との調整の結果、植栽しない方針となり、幅員の見直しが必要となった。

$$\text{歩道幅員} = 2.0\text{m} + \underline{0.5\text{m (その他)}} = \underline{2.5\text{m}}$$

◇減額費用：－16百万円（用地・補償費、工事請負費）

事業計画変更②

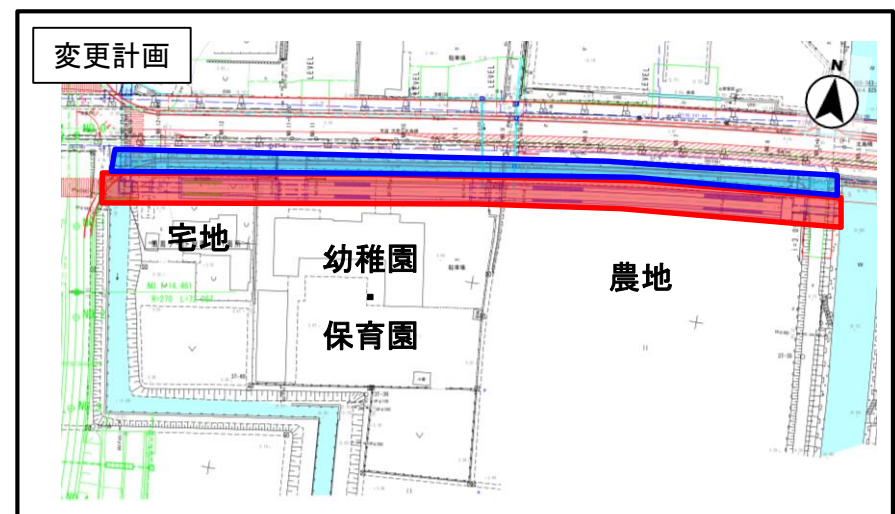
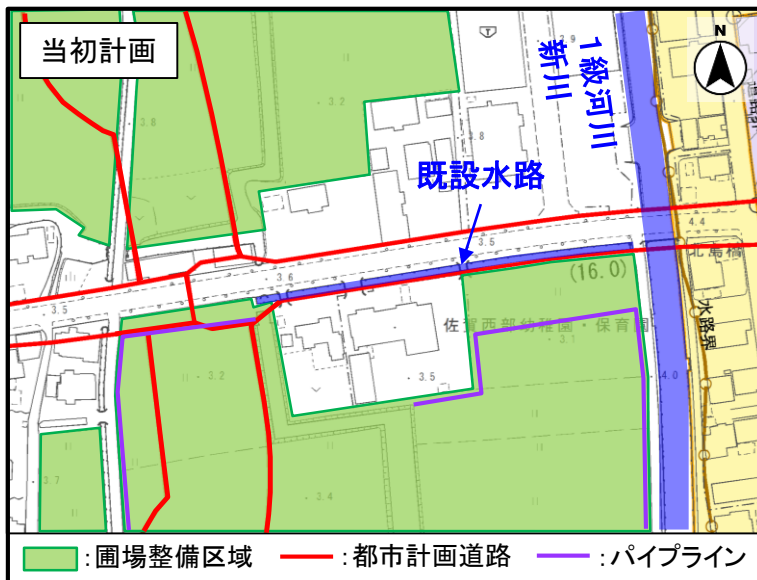
②既設水路の付替え

当初計画では、本事業周辺は圃場整備されており、工事費縮減のため既設の水路（圃場整備区域外）は廃止し、周辺の水路と集約を図ることとしていた。



詳細設計の段階における地元との協議により、用水については従来通り確保できるよう配慮することとなり、既設水路の付替えを行うこととした。

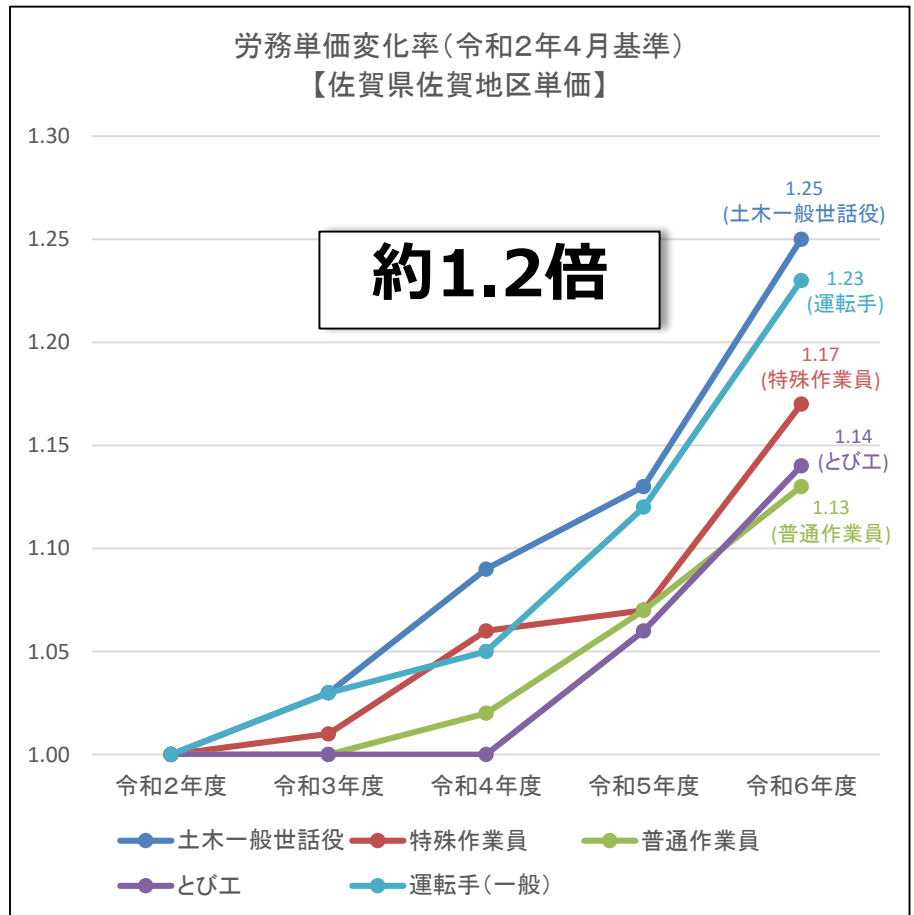
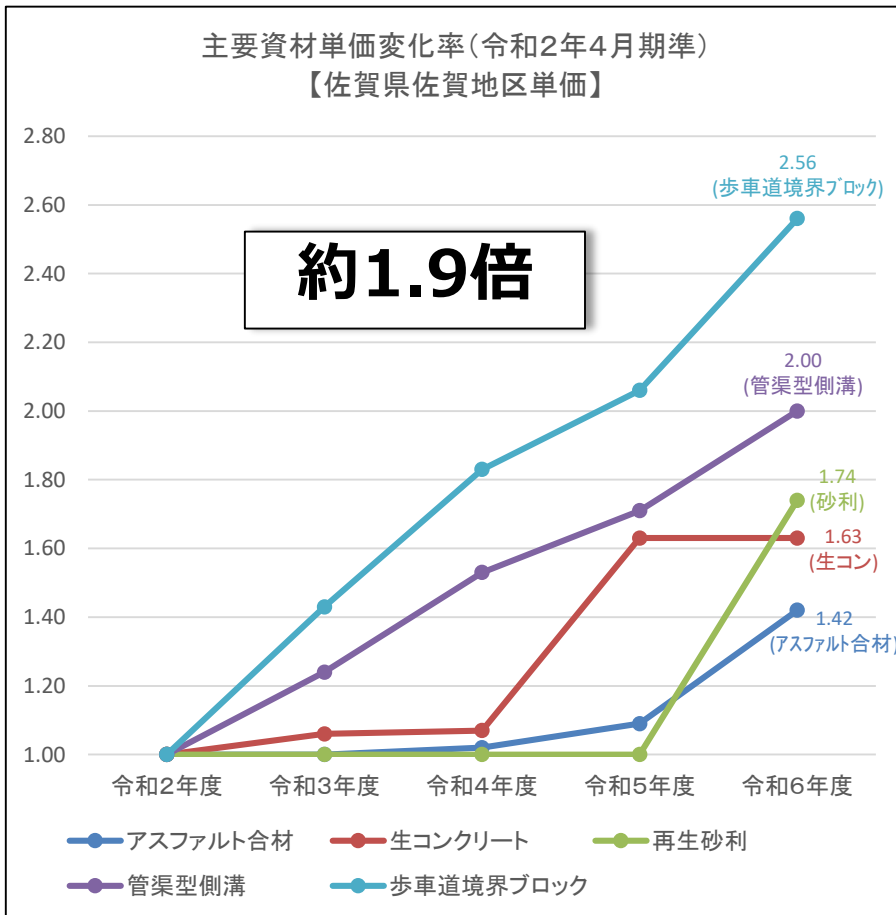
◇増額費用：+ 202百万円（委託費、用地・補償費、工事請負費）



事業計画変更④

④資機材及び労務費等の物価上昇

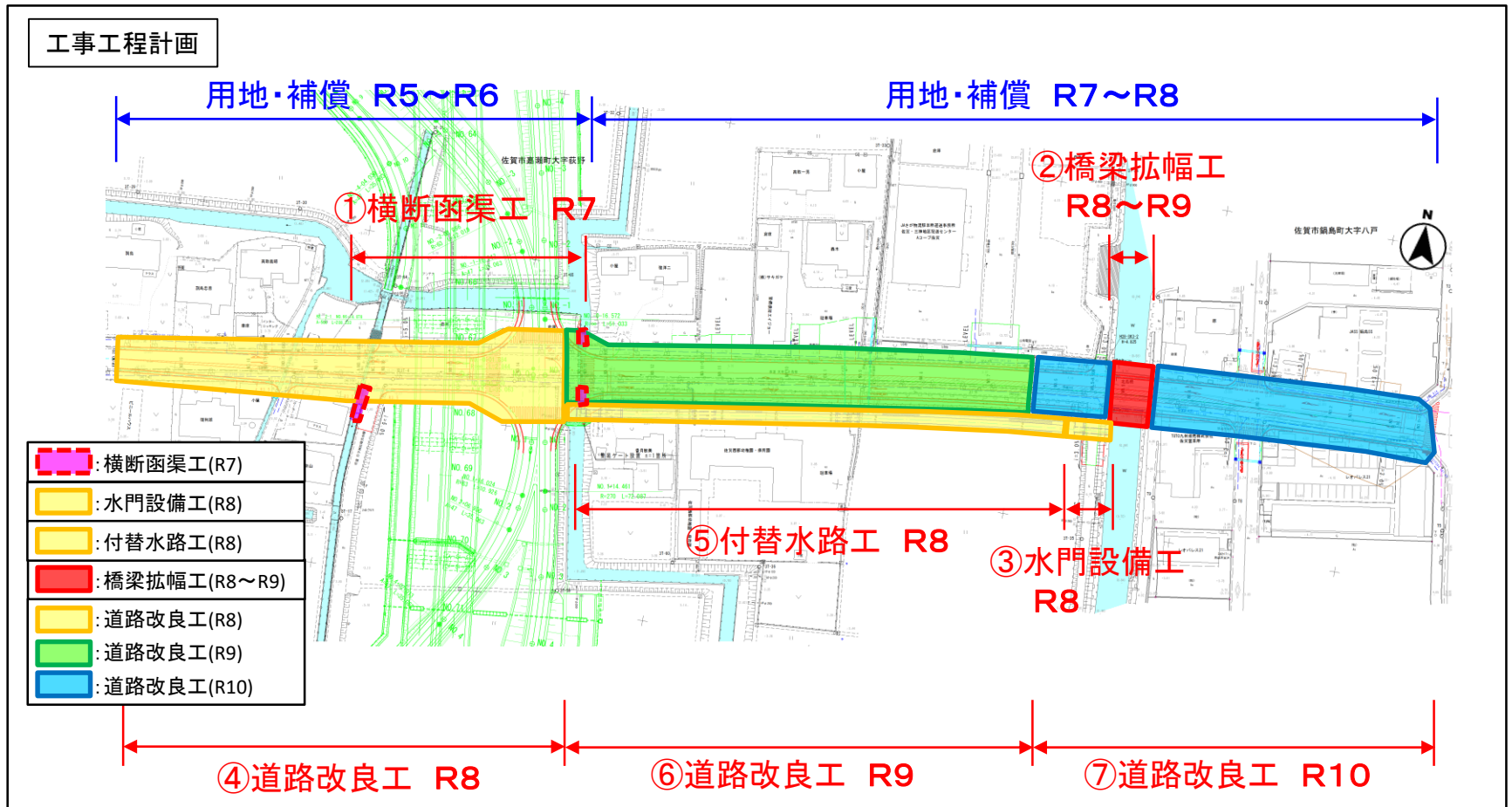
◇増額費用：+ 1 1 3 百万円（工事請負費）



事業計画変更⑤

⑤事業期間の延伸

◇事業期間：+ 3年



事業の必要性

- (仮称)佐賀 JCT から(仮称)鍋島 IC までの佐賀道路の整備は進んでおり、開通に伴う交通量が**約 2 割増加**する。
- J R 鍋島駅周辺の物流拠点や**佐賀市中心部**を結ぶ重要な路線である。



事業の必要性確認(1)

事業の必要性確認のため、費用便益比 (B / C) の算出を行う。

費用便益比 (B / C) とは？

一定期間 (50年間) の事業効果を総事業費で割った値であり、

1. 0以上あれば、十分な費用対効果が得られる事業であると判断される指標である。

便益 (B)	
走行時間短縮便益	道路整備により 走行時間が短くなる ことで得られる価値 (例えば、乗用車で走行時間が1時間短縮すると1台あたり2,461円の整備効果)
走行経費減少便益	道路整備により 走行経費が減少する ことで得られる価値 (例えば、10,000台/日が渋滞解消等により平均速度が35km/h⇒40km/hになった場合1kmあたり2,600円の経費削減効果)
交通事故減少便益	道路整備により 交通事故が減少する ことで得られる価値 (事故損失額は走行台数、道路延長、交差点数に比例)

費用 (C)	
事業費	用地費、建物の移転補償費、設計費、工事費等
維持管理費	供用後、50年間の道路維持費

事業の必要性確認(2)

(税抜)

便 益 (B)	10.48億円
走行時間短縮便益	9.96億円
走行経費減少便益	0.34億円
交通事故減少便益	0.18億円

(税抜)

費 用 (C)	8.00億円
事 業 費	7.90億円
維持管理費	0.10億円

当初

変更

費用便益比 $B / C = 2.0 \rightarrow 1.3$

事業計画の変更に伴う費用便益比 (B / C) を見直した結果、 $B / C = 1.3$ となり、 1.0 を上回ることから費用対効果が十分に得られる事業である。

事業の進捗状況

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 (見込)	R7 年度 (見込)	R8 年度 (見込)	R9 年度 (見込)	R10 年度 (見込)
整備延長 (m)	—	—	—	—	—	140.0	140.0	120.0
累計整備延長 (m)	—	—	—	—	—	140.0	280.0	400.0
事業費 (百万円)	32.0	45.0	64.0	51.0	122.0	363.0	127.0	66.0
累計事業費 (百万円)	32.0	77.0	141.0	192.0	314.0	677.0	804.0	870.0
進捗率 (%) (事業費ベース)	3.7	8.9	16.2	22.1	36.1	77.8	92.4	100.0
工事内容	測量設計 地質調査	構造物設計 水門設計 建物調査	橋梁設計 用地買収 家屋補償	函渠工 (R7に施工)	用地買収 家屋補償	改良工 水路工 水門工 橋梁工 (下部工)	改良工 橋梁工 (上部工)	改良工 舗装工

事業のコスト縮減

● 建設発生土の有効利用

発生した建設残土については、佐賀市・佐賀県の公共工事等へ搬出を行い、資源の有効活用を図る。

【見込み】 発生土全量 (900m³) を市内他現場へ流用した場合
事業全体のコスト縮減効果は約700万円

(約8,200円/m³の縮減)

● 橋梁工事での仮設材の再利用

別事業の工事で購入した仮設材について、本工事でも流用できるものは設計にて反映し、資材の有効活用を図る。

【見込み】 仮設材 (20 t) を流用した場合
事業全体のコスト縮減効果は約60万円